

令和5年度学校関係者評価書

南アルプス市立小中一貫校八田小中学校

第3回学校運営協議会（令和6年2月22日 18:00～ 八田中学校会議室）

<学校運営協議会委員>

- 会長 石丸 洋一（学識経験者 元小中学校長）
- 副会長 穴水 健二（保護者代表 R5年度中学校PTA会長 元小学校PTA会長）
- 委員 横森 充（住民代表 自治会長会代表）
- 笹本 学（住民代表 元小中学校長）
- 湯沢 信（住民代表）
- 貝瀬 修二（住民代表）
- 山本 雄哉（保護者代表、R5年度小学校PTA会長）
- 矢崎 正敏（保護者代表、R5年度小学校PTA副会長）
- 長屋 好美（保護者代表、R5年度中学校PTA副会長）
- 藤巻 孝也（八田小学校後援会長）
- 井上 孝雄（八田地区学校応援団コーディネーター、元小学校長）
- 樋川 純一（市青少年育成会議八田支部長）
- 長澤 廣秋（八田地区地域コーディネーター）
- 川口 祐子（小学校長）

※生徒・保護者・教職員を対象に行ったアンケートを基に作成した「自己評価書」をベースとして、
成果を検証し、次年度へつなげるように、ご意見をいただいた。

I 意見

- 小中一貫校やコミュニティスクールのめざす方向性について
 - ・ 小中の教職員のコミュニケーションを図る。
 - ・ 9年間のあゆみを見据えて、小中で同じ目標をもっていく、形作っていくことが必要である。
 - ・ 9年間の義務教育課程を浸透していくことが大事である。
 - ・ 子どもたちを同じ方向に育てていくために、小中の教職員が互いを意識し、取り組んでいく。
 - ・ 小中一貫のベースとなっているものは何かをもう一度考える。
 - ・ CSで出された意見を他教職員にどのように伝えていくかを考え、全教職員で意識できるようにしていくことが大切である。
 - ・ 授業開放日を設定するなど学校を開放していく機会を増やし、保護者にも見てもらう等手立てを考えていく。学校をみてもらう機会を増やすことでより適切な評価につながる。
- スマホの所有率の増加と家庭でのルール作り
 - ・ 引き続き、家庭での協力をお願いしていく。アンケート結果の実態等を保護者に伝え、スマホに関するルール作りの大切さや情報モラル教育に関することを繰り返し伝え、親子でも学ぶ機会を増やしていく。
- 八田小中でめざす「伝える力」の育成
 - ・ 教職員は「伝える力」をつけさせるために教育活動等を一生懸命に行っていると思っているが、子どもの回答率は教職員が期待しているほど高くはない。子どものとらえ方なのか、実態はどうか、評価を問い直す必要がある。結果が意図していることと違っているならば、どうしたらよいか、改善策を考えていかなければならない。
 - ・ 評価の数値に一喜一憂するのではなく、分析して、評価したことが活きるようにしていくことが大事である。
 - ・ 保護者には、学校の中（教育）が見えない。いかにして理解してもらうか、見てもらうかを教職員がプロ意識をもち「見える化」の教育活動を行っていかなければならない。
 - ・ 子どもたちが「わかった」「できた」と実感すると友達同士でも会話が生まれ、「伝える」「伝わる」につながっていく。
 - ・ 今年度の夏に友好姉妹都市交流事業において穴水町の児童と交流を深めた八田小中の児童生徒は、すぐにうちとけていた。コミュニケーション能力があると感じた。

また、地震後に「何かできないかと子どもたちの方から声があがったことは素晴らしい。

- 家庭学習への取組
 - ・ 数値は低いですが、学校で工夫しながら取り組んできているので今後も継続していくことが大切である。継続することと改善策を考えていくことが今後の課題である。
 - ・ 学校での学びが繰り返され、「わかった」「やり遂げた」という成就感の延長が家庭学習につながっていく。
- 中学校の制服について
 - ・ どのような流れで変わっていくのか。
 - ➡ 世の中の流れの中で変えていく方向で動いている。生徒からのアンケート結果や生徒会本部からのなげかけにより、中学生らしさ、中学生としてふさわしいかをポイントにして校則（きまり）については、4月より改訂していく。

2 まとめ（来年度への課題）

- (1) 小中一貫校やコミュニティスクールの目指す方向性をどのように保護者や地域に伝えていくか、どのように広めていくか。
 - 子どもたちを同じ方向に育てていくために、目指す具体的な子ども像を設定し、小中の教職員がお互いを意識しながら取り組んでいく。
 - 小中一貫教育推進研究会の分科会の組織と取組内容の見直しをする。
 - 小中一貫のキャリア教育についてどうとらえ、それぞれの発達段階でどのような力をつけていくかを考えながら、全体計画を作成していく。
 - 掲示物等を作成し、小中一貫で取り組んでいる内容に見える化し、学校開放日など保護者や地域の方に見てもらえる機会を増やす。
- (2) 小中一貫の授業改善をどのように行って行くか、またその延長としての家庭学習へどのようにアプローチしていくか
 - 学校での学びの中で、「わかった」「やり遂げた」という成就感が繰り返されるよう授業改善を目指す。
 - 小中一貫教育の学習部会で、学びの継続性を意識し、具体的に実施可能な学習方法・学習習慣を確立の手立てを探る。
 - 中学校の定期テストの前に小学合わせて、小学校も学習強化週間を設定し、家庭学習を促す取組を行う。
- (3) 八田小中でめざす「伝える力」の育成をどのように取り組んでいくか。
 - 学習を通して身につけた知識や技能を生かして、発表したり議論したりする場面を授業の中に取り入れていく。

- 学習だけでなく、様々な場面で表現していく力をつけていくように教職員が意識して子どもたちに取り組ませる。
- 自己肯定感を育みながら、自信をもって表現できるような機会を多く作っていく。

(4) 情報モラル教育への取組はどのように行っていくか。

- 継続して取り組んでいく必要性を教職員が意識し、外部講師の活用等様々な手立てを考え取り組んでいく。
- 親子で学ぶ機会を持ち、家庭内でのルールづくり等を考えてもらう機会を設けていく。